



6 七宝古代模様花瓶 本多與三郎 一対

明治二十〜三十年代 七宝  
各径二・〇、高三・五

側面を四面に分割し、黒地と茶地を段幕のように交互に配した花瓶で、黒地には鳳凰花草文、茶地には菊唐草文を有線七宝で表す。それらの上から、斜め格子状に茶系の三色からなる竹籠と、さらにその竹籠に留まったり、その上を飛翔する蝶が有線七宝で表され、複雑な文様構成となっている。釉薬には粒状の茶金石が混ざっており、光の加減によって輝きを放っている。明治三、四十年代になると、わが国の七宝は文様の単純化や余白を大きく取る絵画性を重視した作風へと転換していくが、本作はまだ海外輸出の全盛期であった頃の緻密な有線七宝の技術で表されている。共箱ではないが、「七寶小形古代模様御花瓶 壹對」と箱書きされている。

本多與三郎（生没年不詳）は明治中後期に活躍した尾張名古屋の七宝工。茶金石七宝を創始したことで知られ、明治二十二年（一八八九）のバリ万博では金賞を受賞した。また一方で、その前年に外国観光客専門の店舗を名古屋にいち早く開くなど、商才にも長けていた。作者は、博覧会などへの出品記録により、これまで「本多與三郎」の名前で知られてきたが、本作を収納する共布には「名古屋中之町三 七寶屋 本田與三郎」の朱印があることから、本田姓でも活動していたことを示している。

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出典を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

古典再生 — 作家たちの挑戦

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 72

編集 宮内庁三の丸尚蔵館

制作 株式会社 東京美術

翻訳 黒川廣子

発行 宮内庁

平成二十八年三月二十六日発行

© 2016, The Museum of the Imperial Collections, Sanjūmaru Shōzokan